

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：通所介護 くらしの家

施設種類：認知症対応型通所介護

日時：令和4年12月26日 10:30～11:30

会場：通所介護 くらしの家 相談室

出席者：

利用者代表	0名	第三者委員	1名
利用者家族	1名	出雲市健康福祉部 高齢者福祉課 職員	1名
事業所職員	2名		

(議題)

1. 挨拶
 2. 自己紹介
 3. 活動報告
 4. 意見交換
 5. その他
-
3. 活動報告(事業利用状況、及び前年度との比較による運営状況)
 - 1) 月別利用延べ人数
 - 2) 曜日別登録者数
 - 3) 利用者介護度
 - 4) 紹介居宅事業所数
 - 5) 利用者の平均年齢
 - 6) 自主事業
 - 7) 職員資格
 - 8) 一日の流れ
 - 9) 実施行事
 - 10) 防災訓練(火災・地震・津波の想定)
 - 11) ボランティア受け入れ状況
 - 12) 苦情・ヒヤリハット・事故報告
 - 13) 職員会議、職員研修計画
 - 14) 環境整備の取り組み
 - 15) 新型コロナ発生状況
-
4. 意見交換(評価、要望、意見、助言等)

利用者家族：本当によくやってもらっている。認知症になり、良くはならない。進行している。今年の8月から膝が痛く歩きたいけど歩けない。前の施設でお風呂に入れなくなり、くらにしの家を紹介してもらった。(くらにしに)週4回、来てよかった。お風呂がくらにしで終わるから、家でお風呂がないだけでも介護が楽になる。4日間もくらにしに行っているのかな?と最初は思ったけど、嫌がらずに行く。おやじも違うデイサービスに行っている。同じ所に行くと、お互い気になると思う。今の所順調に通っている。自分で歩こうとも立ち上がろうともしない。膝に水が溜まって、抜いていたがあまり抜きすぎるのもよくないと聞いた。

食事は前より減っている。くらにしでどれくらい食べたとか記録に残っていていい。利用した翌日は疲れていて、ほとんど寝ている。昼間はなるべく起きていようと言うがこたつにあたって寝ている。8月9月は立って歩いていたが、自分でトイレに行ったらトイレで倒れていた。無理して動かなくていいやと思うようになった。

職員の方も色々な事をされて大変。よくされていると思う。迎える時間も前後せずに迎えに来てもらっている。おじいさんの所は30分位違う時がある。それなりに楽しく生活している。時々、「私を捨てる?」など言う。自分の思いが伝わらないと無視か寝ている。

第三者委員：年寄りを抱えている家庭は同じような悩みがある。

ひやりはっとの様式を変更し、一ヶ月に一回集計しているのは、良い改革だと思う。

ミーティングは話し合いに時間をかけず要点を話し早めに終わる。時間をかけるのが言い訳ではない。薬を忘れ取りに行った事について、薬を忘れた場合は困る。薬は大事なので気を使った対応が必要。沢山行事もあり大変だと思う。

高齢者福祉課：ひやりはっとの様式を変更し、変わったことはあるか?

くらにしの家：ひやりはっとの数が増えた。以前の倍以上になり、少しドキッとした事でも記入するようにしている。ふらつきがある方には、見守り付き添いの強化をするなど、職員全員で情報を共有し事故防止に努めている。

利用者家族：居宅数とは?

くらにしの家：ケアマネの居宅事務所の数である。

利用者家族：要介護4,5になっても通えるか?来てもらっては困るなど言われることはあるか?

くらにしの家：今のところはない。出来る限り在宅生活を応援していきたい。機械浴等はないが、入浴も二人介助で入浴して頂いている。

利用者家族：お風呂の事を聞いて安心した。

第三者委員：貼り薬とは?

くらにしの家：認知症の貼り薬で場所をかえて交換している。

第三者委員：皮膚が弱いので、バツと剥ぐと血が出たりしたら大変なので気を付けなくてははいけない。

利用者家族：そんな薬がある事は知らなかった。家で薬が下に落ちている時がある。薬局であまり噛んで飲まないようにと言われる。病院に行くと薬ばかりが増える。

5. その他

施設内見学をしてもらう。